

チベットに於けるナーガールジュナの の六つの「理論の集まり」について

ツルティム・ケサン

I

周知のように、ゲルク派の伝統では、ナーガールジュナの六つの「理論の集まり (rigs tshogs)」, 即ち理論によって空性を論証している六つの書, は次のごとくである。

- (1) *rTsa śes* (*Mūlamadhyamakakārikā*, 『根本中論』, Pek. No. 5224).
- (2) *sToñ ñid bdun cu pa* (*Śūnyatāsaptati*, 『空七十論』, Pek.No. 5227).
- (3) *rTsod bzlog* (*Vigrahavyāvartanī*, 『廻諍論』, Pek. No. 5228).
- (4) *Rigs pa drug cu pa* (*Yuktiṣaṣṭikā*, 『六十頌如理論』, Pek. No. 5225).
- (5) *Shib mo rnam ḥthag* (*Vaidalyasūtra*, 『広破論』, Pek. No. 5226).
- (6) *Rin chen phreñ ba* (*Ratnāvalī*, 『宝行王正論』, Pek. No. 5658).

この六論の考え方に対してはチベットに於いて異論が見られる。そこでこの小論では、この問題に対してチベットで如何に議論がなされてきたかを簡単に紹介したい。

II

まず、プトン (Bu ston rin po che, 1290-1364) は彼の *Chos ḥbyun* の中で¹⁾、「理によって説いた理論の集まり」と述べるだけで、そのテキスト名や数は明確にしている。

次に、プトンの弟子で、レンダワ (Red mdaḥ ba) の師でもあるサキャ派のニャオン=クンガパル (Ñā dbon Kun dgaḥ dpal) は『現観莊嚴論』に対する彼の注釈の中で²⁾

ナーガールジュナは「中の理論の集まり (dbu ma rigs tshogs)」をお造りになった。即ち *rTsa śes* と *sToñ ñid bdun cu pa* と *Rigs pa drug cu pa* と *Shib mo rnam ḥthag* と *rTsod bzlog* と *Tha sñad grub pa* (**Vyavahārasiddhi*) である。

と述べて、六つの論書を列挙している。このうち、最後の論書は梵・藏・漢いずれのものも現存していないが、シャーンタラクシタの *dBu ma rgyan gyi ḥgrel pa* (*Madhyamakālaṃkāravṛtti*, 『中観莊嚴論自註』) の中に一部引用されていることは既に指摘されている³⁾。このことに関して、ダルマリンチュエン (rGyal tshab Dar ma rin chen, 1364-1432) も、*Rin chen phren ba* に対する彼の注釈の中で⁴⁾、「*Tha sñad grub pa* は *dBu ma rgyan gyi ḥgrel pa* に於いて一部の偈が引用されるだけでそれ以外はチベットでは完全には訳されていない」と述べている。カマラシーラが *dBu ma rgyan gyi dkaḥ ḥgrel* (*Madhyamakālaṃkārapañjikā*, 『中観莊嚴論細疏』) で上記の箇所を注釈する際⁵⁾、*Tha sñad grub pa* のテキスト名を上げてそれがナーガールジュナの著作であることを明言していることから考えて、確かに、このテキストが存在し、しかもそれがナーガールジュナの著作であることは疑い得ないであろう。事実そのことに関してはチベットでは異論は出ていない。しかしそれをナーガールジュナの「理論の集まり」に加えることには異論が出てくるのである。

ゲルク派の祖師であるツォンカパ (Tsoñ kha pa, 1357-1419) が、教説を吟味することが完全でなかった時に書いた『現観莊嚴論』の注釈 *Legs bśad gser ḥ-phren* の中で⁶⁾、彼は、

ナーガールジュナの「理論の集まり」は、*dBu maḥi rtsa ba* (*Mūlamadhyamakakārikā*)、その第一章「縁の観察」から発展した *rTsod pa bzlog pa*、第七章「生・住・滅の観察」から発展した *sToñ ṅid bdun cu pa*、内教を特別に否定する *Rigs pa drug cu pa*、〔自性を〕証明する論理の十六句義を否定する *Shib mo rnam ḥthag*、との五つである。これに対して、ある者は *Tha sñad grub pa* 或は *Rin chen phren ba* 或は *Ga las ḥjigs med* (**Akutobhaya*) を加えて「理論の集まり」は六つの数に決定していると主張している。

と述べている。しかし、教説を吟味することが完全になってから書かれた『根本中論』に対する大註に於いては⁷⁾、

理論によって説かれたものは、*rTsa ba ses rab*、*sToñ ṅid bdun cu pa*、*rTsod zlog*、*Rigs pa drug cu pa*、*Shib mo rnam ḥthag*、*Rin chen phren ba* である。〔その〕六つに於いては〔空性が〕多くの理論によって決択されている。

と述べている。このことからツォンカパは初期に於いては、ナーガールジュナの「理論の集まり」を六つと確定することにそれ程こだわっていなかったように思われる。ただ当時既に六つという数が一般的なようであり、六つ目に何を入れるかを巡って様々な議論があったことが伺われる。そして後年になって彼は *Rin*

chen phren ba を加える説を採用して「理論の集まり」を六つと確定するのである。これ以後に書かれたゲルク派の文献はどれもこれに従っている。

III

ツォンカパは *Rin chen phren ba* を加える説を採用する場合、他の二説の不合理性に関して何等言及していないが、グドゥントゥブ（dGe ḥdun grub, ダライラマー世, 1391-1474）は *Si tu rnam rgyal grags paḥi dris lan* の中で⁸⁾,

ナーガールジュナは理論によって決択して六つの「理論の集まり」をお造りになった。「中の理論の集まり」という意味は、『般若経』に説かれるごときの断と常の二辺を離れた「中」或は空性を理論によって詳しく決択しているテキストに対して「理論の集まり」と言われる。その場合、*Rin chen phren ba* を「中の理論の集まり」に数えることは合理である。なぜならそ【のテキスト】は、輪廻の根本が我執であると説いて、我執を断じるために我執の対象である人を無我であると、理論によって詳しく決択しているからである。*Tha sñad grub pa* は「中の理論の集まり」に数えるのは正しくない。なぜならそ【のテキスト】は空性を理論によって詳しく決択しているのではなく、自性として無ければロバの角のごとく世間言説の確立は正しくないという論難に対して、自性として無なるものに縁起は合理であるから世間言説の確立は全く正しいことが証明されると、説いているからである。*Tha sñad grub pa* という名称自身によっても空性を詳しく説いていないことは判る。又、*Ga las ḥjigs med* が【ナーガールジュナの】自註であること⁹⁾と *Tha sñad grub pa* を「中の理論の集まり」に数えることはアーチャールヤチャンドラキールティの考え方ではない。*Tshig gsal gyi mjug (Prasannapadā)* の中に、「*mDo sde kun las btus (Sātrasamuccaya)*, 『大乘宝要義論』と……（中略）……又、*rTsod pa rnam par zlog pa* とそれらの注釈をも見て……（後略）……」というように、深遠な経典とアーチャールヤ（ナーガールジュナ）によって造られた真如を説いた論書（『根本中論』）とそれの密意を注釈したこういった論書を見ることによって *Tshig gsal* を書いたと言われるが、「*Ga las ḥjigs med* と *Tha sñad grub pa* を見て」とは言われていないからである。

などと述べている。このようにグドゥントゥブはツォンカパの説を補強し、ゲルク派の説は確立するのである。

これに対して、サキャ派のゴラムパ（Go rams pa, 1429-1489）は、ニャオン＝クンガーパルに従って、*Nes don rab gsal* の中で¹⁰⁾、次のようにゲルク派の説を批判している。

「理論の集まり」, 「讃頌の集まり (bstod tshogs)」, 「話の集まり (gtam tshogs)」の

三つの中、最初の事に対しては善知識マチャパ（rMa bya ba）の考え方によるのである。主要な身体のごとき *rTsa ba śes rab* と *Rigs pa drug cu pa* の二つの論書、〔それから〕発展した手足のごとき論書、即ち *rTsa ba śes rab* の「縁の観察」から発展した *rTsod pa bzlog pa*、「行の観察」から発展した *sToñ ñid bdun cu pa*、諸事物の自性が無ければ自性を量によって証明することと矛盾するという論難の答えとしての *Shib mo rnam ħthag*、自性が無ければロバの角などのごとく世間言説の確立は正しくないという論難の答えとしての *Tha sñad grub pa* の四つ、との六つであるから、*Rin chen phreñ ba* との六つとするのは正しくない。それは「話の集まり」であるからである。

-
- 1) Bu ston Chos ħbyuñ, ya, 100a3.
 - 2) *bsTan bcos mñon par rtogs paħi rgyan ħgrel pa dañ bcas paħi rgyas ħgrel bśad sbyar yid kyī mun sel*, New Delhi, 1978, 3a3.
 - 3) M. Ichigo, *Madhyamakālamkāra*, Kyoto, 1985, pp. 212-215.
 - 4) *Rin chen phreñ baħi Dar ħika*, Toh. No. 5427, Shol par (lha sa ed.), ka, 2b5.
 - 5) M. Ichigo, *op. cit.*, p. 213.
 - 6) *Legs bśad gser ħphreñ*, Toh. No. 5412, Shol par (lha sa ed.), tsa, 4a1.
 - 7) *rTsa śes ħika chen*, Toh. No. 5401, Shol par (lha sa ed.), ba, 4a2-3.
 - 8) *The Collected Works of the First Dalai Lama Dge ħdun grub pa*, Gangtok, 1981, Vol. 6, 15a1.
 - 9) アヴァローキタヴラタは『般若灯論広註』（Toh. No. 3859, 5b3-4）の中で *Ga las ħjigs med* がナーガールジュナの自註であると述べている。しかしツォンカパは *Drañ ñes* (lha sa ed. 49b4-5) の中で、次の二つの理由を上げてそれがナーガールジュナの自註であることを否定している。
 - ① *Ga las ħjig med* の第 27 章に『四百論』が引用されている。
 - ② ブッダパーリタとバヴァヴィヴェカとチャンドラキールティがこのテキストに全く言及しない。
 - 10) *Nes don rab gsal*, Toyo Bunko, 1969, tsa, 7a3-5.

（大谷大学講師）